



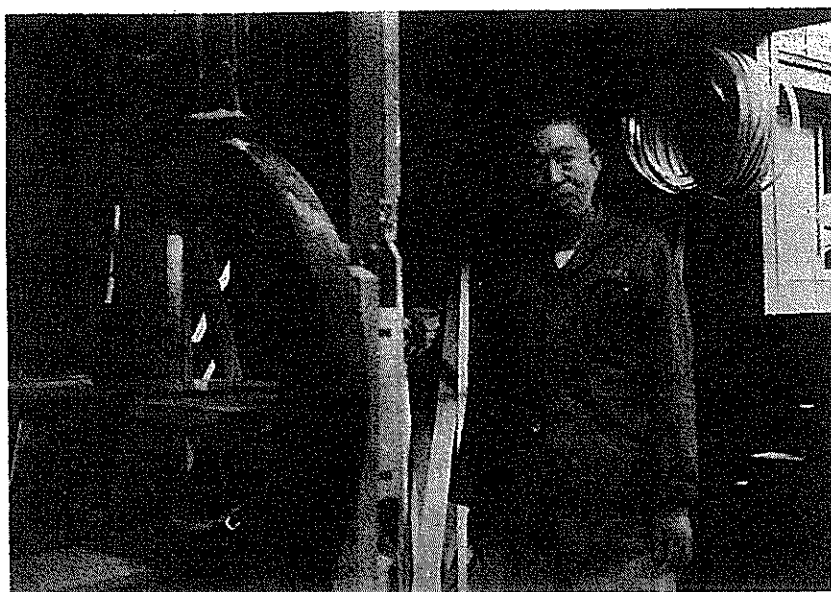
## 地方自治の振興

たか 高      しな 階      ちよう 長      きち 吉

(75才)

高階氏は、能代市能代町島町追分にう  
まれ、明治44年秋田県巡査を命ぜられ、  
昭和4年横手署長をもつて退職するまで

刑事課長あるいは第一線の警察署長として数多くの功績をあげた。昭和8年町議となり  
町政の基盤確立につとめ、同10年には県議会議員に当選し在職2年、同15年市議に当選、  
以来今日まで連続6期におよびその間議長に就任すること2期間、積極的な議会活動と  
その運営につとめ、特に山本郡医療購買利用組合を結成して現在における厚生連の病院  
経営の先導となつて実効を収め、現在もなお市議、監査委員等を重任して地方自治の発展  
に尽くしている。なお、氏は昭和37年地方自治功労者として藍綬褒章を授与されている。



## ブナの用材化に成功

はぎ 萩 原 やす 易 じ 治

(74才)

萩原氏は、秋田市十人衆町に生まれ小学校卒業とともに家業の指物業に従事し、昭和10年には独立して木工場を経営、同29年に業務拡張して現在地(茨島)に工場を建設した。

はやくより豊富な資源を有するブナの用材化に着目し、実地面より献身的な努力を重ね、とくに乾燥に工夫を凝し用材としての難点を打開し、ついに企業としての用途開拓に成功をおさめた。以来ブナ材による家具製作に取り組み、営々として30有余年研究と改善につとめ、今日の優秀なブナ家具の量産の基礎づくりと発展に寄与している。

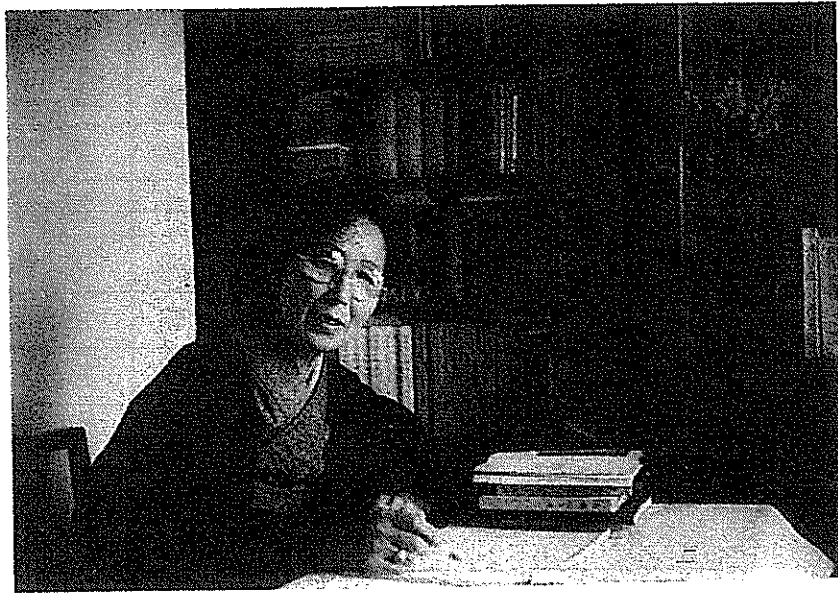


## 鹿角りんごの産業化

と ざわ ち よ じ  
兎 沢 千 代 治

(69才)

兎沢氏は、鹿角郡花輪町下屋敷に生まれ、明治42年教員養成準備場を卒業後家業に従事した。特に地場産業である「りんご栽培」については、自己の利害にこだわらず不断の研究を続け、害虫防除の共同化、剪定整枝の指導ならびに同業研究者に対する宿泊施設の提供等をなし、80有余年の栽培歴史をもち今日面積1,010ヘクタール、生産額6億円という鹿角りんごの隆盛の基盤造成につとめた。なお、氏は昭和17年柴平村議となり引き続き町議となつて地方自治の振興にも寄与している。

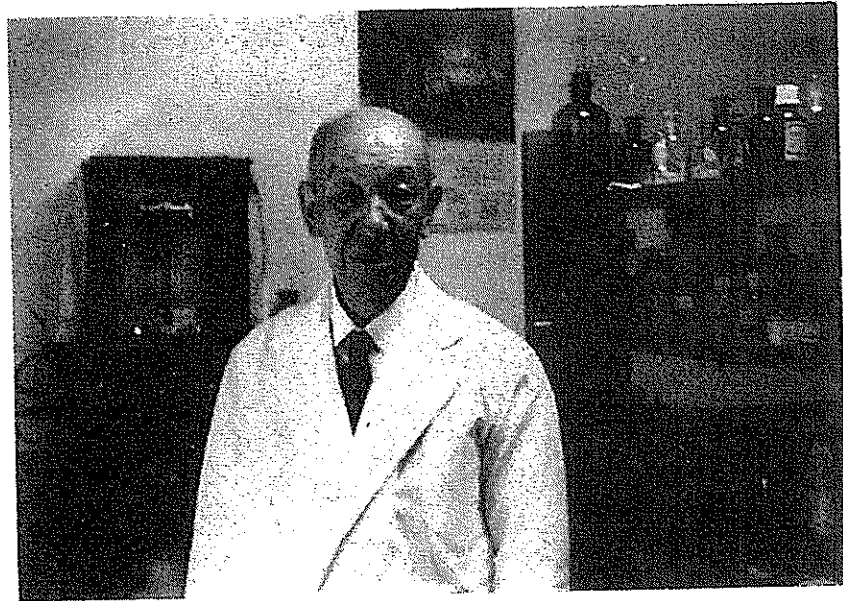


## 地方文化の交流

わし 鷺 尾 ヨ シ

(68才)

鷺尾氏は、能代市朴瀬字家後に生まれ、現在秋田市に居住している。若くして文芸誌「成長」を発刊、平塚らいてう、室生犀星氏等と交友して文筆をもって女権拡張運動に活躍した。昭和8年郷土誌「秋田」を発刊、同19年休刊のやむなきに至った。同24年復刊をみて今日に及んでいるが終始一貫「秋田」を通して県外にある秋田県人との地方文化の交流につとめてその融和をはかり、県人会の組織づくりに寄与している。戦時においては傷病兵あるいは外地将兵慰問、終戦後は戦犯釈放運動につとめる等、その巾のある活動は現在なお続けられている。



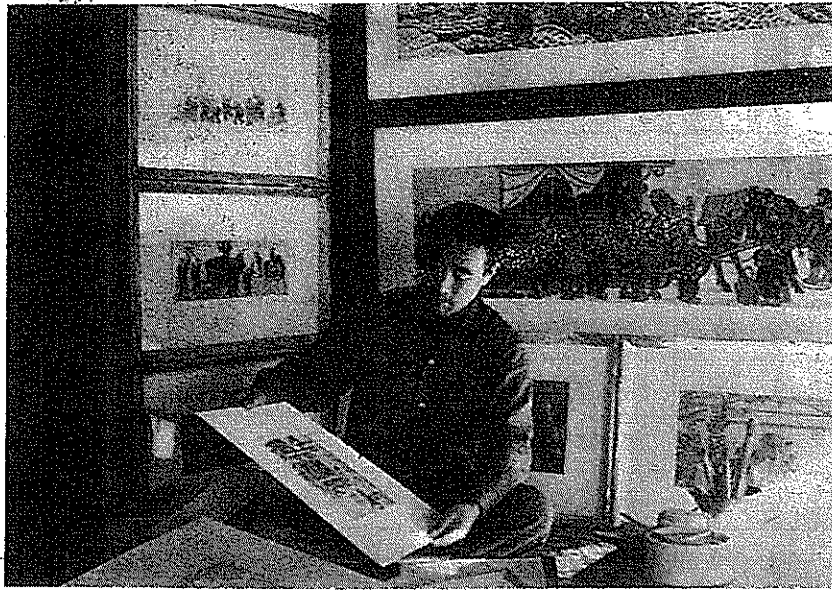
## 精神衛生の推進

こ 泉 じゆう けん  
小 泉 重 憲

(66才)

小泉氏は、秋田市榎山に生まれ、新潟医専を卒業後、東大伝研、駒込病院に勤務し、大正11年帰郷して病院経営をなし現在に至っている。

当時の無医村の実情等から医育機関設置の必要を説き、昭和20年県立女子医専設立に当っては、自己所有の施設を提供してその指導にあたり、特に県内における精神病患者が収容施設のないまま放置されているのを憂い、土地、建物、医療器具を無償提供して昭和6年秋田脳病院を経営して患者を収容し、同11年県代用病院となり、同26年医療法人「回生会」を設立して今日に至っている。また、40有余年学校医として学校保健につきす等現在なお医療界の重鎮として活躍している。



## 版画美術の宣揚

かつ ひら とく じ  
勝 平 徳 治

(59才)

勝平氏は、秋田市にうまれ画名を得之<sup>とくし</sup>という。昭和3年日本美術院木村五郎に師事し、自ら案出した色彩摺木版画の技術をさらに練磨し、絵、彫、摺の3つの工程をひとりでなす三味一体の創作木版画をなしとげ、昭和6年日本版画協会員となつて帝展に初入選以来、文展、奉祝展、日展等に16回入選して注目を浴び、現在日本美術家連盟会員、日展招待出品委嘱(無鑑査)となつて、なお、創作活動を続けている。氏の画風は専ら郷土秋田の風物に取材し、その代表的作品にみられる童画的な風俗と農村の人の美しさを画いたものは、独創的な芸術として高く評価され、外国美術館にも多く陳列され称賛をうけている。